

1ページから引き続き「新成人との座談会」

印西市の魅力は

発展の可能性が高く自然が豊かなまち

司会 山崎市長と出山議長から新成人への期待について伺います。

市長 みなさんの二十歳の心境を伺い、その中に、家族や友だちへの感謝の言葉があったことをとてもうれしく思います。

今後はその気持ちを忘れず、両親にはしっかりと親孝行をし、家族や友だちというのは社会生活の中で一番大切になるので、それを大事にしていただければと思います。

議長 二十歳になると成人として自立しなければならぬ時期になったと考えられます。みなさんが持つ希望や目標の実現に、一歩でも前進するために、信念を持って頑張ってくださいと思います。

司会 印西市は平成22年3月に印西市、印旛村、本埜村の1市2村が合併して新「印西市」としてスタートしました。合併により市域も広がり、さらなる可能性が考えられると思いますが、そこでみなさんが考える印西市の魅力についてご意見を伺います。

まちとが融合し調和のとれた市だと思っています。

新聞社の住みよきランキングの2010では、関東で第2位、総合では第5位の上位にランキングされたので、わたしはすごくいいまちに住んでいることをあらためて思いました。

伊藤さん 今、神奈川でひとり暮らしをしています。実家に帰るとき思うのが、緑の多さがほかの都市と比べ物にならないくらい多いと感じるのと、安心して歩けるまちだと思います。

帰ってくるたびに、北総線の運賃が高いのが財布に厳しいのですが、まだまだ発展可能な注目されているまちでもあるので、今は誇りを持って千葉ニュータウン中央に住んでいると言えます。

寺田さん 印西市は発展性があり、千葉ニュータウンなど自分たちで計画し、豊かな自然を生かした住みよきまちをつくることのできる可能性のある将来性の高い市だと思います。

あと、周りに子どもが多いので、もうちょっと保育所を増やしたほうがいいのではないかと感じています。



山崎市長



出山議長



田口千聖さん

いかなというのがあります。

住宅情報の本では、住みよいまちで取り上げられていたので、自慢できると思っています。

大坂さん 平賀学園台に住んでいるので、合併前は印旛村になります。合併してからは『広報いんざい』など、市からの情報がすごく多いのだと感じました。

印西市は、まだ発展が可能で、若い人たちが積極的にまちづくりに参加でき、自分たちが想い描くまちをつくることのできる可能性を持っているのが一番の魅力ではないかと思っています。

司会 今、新成人のみなさんから市の魅力について伺いました。それらについてコメントを山崎市長、出山議長からいただきたいと思っています。

市長 住みよきランキングは、外的な評価であり、そこに住んでいる人が本当に住んでいてよかった、住みやすい、これからますます住み続けたい、また住んでみたいというような実感ができないという意味がないと思うので、すべての市民のみなさんが、本当に印西市に住んでよかったと実感ができるといいと思います。

市長になってから、市民主体の安心・安全・活力のある



伊藤周二郎さん

まちづくりに力を注いできました。市民のみなさんの協力で安心、安全、活力が出てきているということをお聞かされていますので、今後もしっかり

大坂さん 最初に述べましたように物づくり、具体的には模型作りですが、日本・世界一になるため、世界の物づくりを見たいと思っています。まずは、物づくりの原点のドイツに行き、いろいろな良いものを見て、新しい発見があれば自分の作品に取り入れていこうと思っています。

寺田さん わたしも就職活動に向けて準備しなければならぬと思っています。

伊藤さん 具体的な目標は模索中ですが、20歳で成人式を迎えるということで心機一転、これからの目標を決めたいと思います。

また、留学をしたいので、その実現に向けて一生懸命頑張ります。



寺田有輝さん



大坂将太さん

と続けていきたいと思っています。新成人のみなさんにも協力いただいて、いいまちを一緒につくっていききたいと思っています。

議長 みなさんがまちづくりに関心を持って参加してくれることは非常にいいことだと思います。

議会といたしましても、みなさんのような若い人たちが印西に住み続け、家庭を持ち子育てがしやすく、高齢者にも住みやすいまちづくりを進めたいと考えています。

合併の課題として、合併後の一体感の醸成があります。先日、大廻・造谷地区の消防団が千葉県を代表して全国消防操法大会に出場しました。選手たちの日ごろの努力は、一体感の醸成につながっているといます。このように、市の良さをアピールし、より磨きをかければ、おのずと一体感も醸成し、魅力のあるまちになるのではないかと思います。

希望の実現に向けて平成23年の目標と抱負

司会 最後に、みなさんの平成23年の目標もしくは抱負をお聞かせください。

田口さん 今年は大学3年生になり、就職活動も始まるので、社会人になるまでの間、今自分で実行したいことを、一つひとつ確実に実行したいと思っています。

具体的には、海外ボランティアで社会に貢献できればと思っています。

伊藤さん 具体的な目標は模索中ですが、20歳で成人式を迎えるということで心機一転、これからの目標を決めたいと思います。

また、留学をしたいので、その実現に向けて一生懸命頑張ります。

めたいと考えています。

合併の課題として、合併後の一体感の醸成があります。先日、大廻・造谷地区の消防団が千葉県を代表して全国消防操法大会に出場しました。選手たちの日ごろの努力は、一体感の醸成につながっているといます。このように、市の良さをアピールし、より磨きをかければ、おのずと一体感も醸成し、魅力のあるまちになるのではないかと思います。

その視線の先が世界に向けており大変頼もしく、またうれしく感じました。節目となる本年、『鬼の登り坂』のごとく、持ち前の力を発揮し万進していただきたいと思っています。

わたしも議会といたしましても、全ての世代の人々が住みやすい街となるよう取り組んでまいります。また、わたしも議会人として努力してまいります。

市長 今年は、これまで策定を進めてきた新しい総合計画が完成します。この計画は、合併後の印西市の新たなまちづくりの指針で、これに基づき本市の理想像として描く「将来都市像」の実現に向けて市政を行います。

わたしの今年の抱負は、この計画の通り、また、市民の視線に立ち、子どもから高齢者まで市民一人ひとりが安心感を持って、快適な日々の生活を送れるよう市民主体の魅力あるまちづくりを進めることです。

司会 本日はありがとうございました。

平成22年 印西市の主な出来事

◆ふれあいバス時刻・乗継検索システム利用開始

東京電機大学情報環境学部の学生の、構想段階からシステム製作まで、全面的な協力で完成した「ふれあいバス時刻・乗継検索システム」が利用可能になりました(2月)。

◆松山下公園総合体育館完成

松山下公園内に総合体育館が完成し、4月から利用を開始しました。6月には、常設のクライミングウォールを利用し、国体のリハーサル大会として第24回リード・ジャパソニック千葉大会が開催されました(3月)。

◆新「印西市」が誕生

合併協議会設置から約1年2カ月、印西市・印旛村・本埜村の1市2村が3月23日に合併し、新「印西市」が誕生。9月11日には新市誕生を祝う「印西市合併記念式典」を開催しました(3月)。

◆成田スカイアクセス開業

都心と成田空港を結ぶ「成田スカイアクセス」が7月17日に開業。市内から都心がますます近くなり、成田国際空港へのアクセスも向上。運賃も改定され、普通運賃が約4.9%、通学定期運賃が約25%、通勤定期運賃が約1.1%値下げとなりました(7月)。

◆新市の市民憲章、市の花・市の木・市の鳥・市の魚が決定

合併に伴い、新たに市民憲章を制定。また、市の花には「コスモス」、市の木には「サクラ」、市の鳥には「メジロ」、

市の魚には「ナマス」を指定しました(9月)。

◆人口9万人を突破

市の人口は、合併の時点で88,742人。転入や新生児の誕生などにより、9月21日に9万人に到達しました。その後も増加し、12月1日時点での人口は、90,422人になっています(9月)。

◆第65回国民体育大会山岳競技が松山下公園総合体育館で開催

第65回国民体育大会・ゆめ半島千葉国体の山岳競技が、10月2日〜4日の3日間松山下公園総合体育館で開催され、3日間でのべ5,000人の来場者を集めました。

大会は千葉県選手団が総合優勝、2年連続で天皇杯と皇后杯を獲得しました(10月)。

◆印西市消防団が全国消防操法大会に出場

7月の千葉県消防操法大会小型ポンプの部で最優秀賞を修めた印西市消防団印旛支部第4分団第10部(大廻・造谷)が、愛知県蒲郡市で開催された全国消防操法大会に千葉県代表として出場。敢闘賞を受賞しました(11月)。

◆くらしの便利帳を発行

行政情報のほか市内の観光スポットなどの地域情報や医療機関情報などを1冊にまとめた「印西市くらしの便利帳」が完成し、各世帯へ配布しています。

官民協働事業として発行したこの便利帳は、広告掲載料により市の経費の削減を図りました(12月)。